

## 概要

Linux でホットバックアップができるツール。

rsync 等でバックアップする。

GUI でバックアップする対象や除外するディレクトリなど細かい設定ができる。

GUI 以外にコマンドラインでの操作もできる。

## 設定

### インストール

yum とか apt で

```
timeshift
```

をインストール。CentOS の場合は epel リポジトリが必要。

### 設定

基本的に GUI を起動して設定すれば良い。

Users タブや Filters タブでホームディレクトリや除外するディレクトリ、ファイルを指定する。

バックアップ先に指定したデバイス直下の

```
/timeshift
```

ディレクトリにバックアップが作成される。

#### inode 数

daily とかであまりバックアップを取りすぎるとファイルシステムの inode の上限に達するので注意。

#### mlocate の設定

mlocate を使っている場合、timeshift のバックアップ先を updatedb の対象から除外しないと

```
/var/lib/mlocate/mlocate.db
```

が肥大化するので注意。

```
/etc/updatedb.conf
```

を開いて、PRUNEPATHS に /timeshift のパスを追加したほうが良い。

#### flatpak

flatpak を使っている場合、以下のディレクトリ以下のファイルが毎回差分になることがある。

サイズが大きくなって邪魔になる場合は、timeshift のフィルタの設定で除外する。

```
/var/lib/flatpak
```

個人的には flatpak 自体不要かなと思うので、flatpak はアンインストールしてもいいかなと思う。

## コマンドライン

### バックアップのリスト

```
timeshift --list
```

### バックアップ実行

```
timeshift --create
```

### リストア

```
timeshift --restore
```

コマンド実行後にどのバックアップをリストアするかなどを聞かれる。